

カナダ・アルバータ州ロイヤルアルバータ博物館の視察報告

高橋佳久・成田敦史

Key Words

RAM (Royal Alberta Museum)、展示 (Exhibition)、収蔵庫 (Collections storage)、先住民アート (Indigenous art)、友好館提携 (Partner Museums)

1 はじめに

ロイヤルアルバータ博物館 (Royal Alberta Museum ; 以下、RAM) は、カナダ・アルバータ州の州都であるエドモントンに位置する自然史や人類史を扱う総合博物館である (図1)。RAMと北海道博物館 (以下、当館) は、北海道とアルバータ州の姉妹提携交流のなかで、1998年に「友好館に関する覚書」を交わし、友好を深めてきた。今回、北海道とカナダ・アルバータ州の姉妹提携45周年を迎えるにあたり、新たに友好館としての覚書を交わすこととなった。これまでも当館とRAMは、学芸員の相互派遣、共同研究、資料貸借、共同の展示開催などの取り組みを長く継続してきたが、友好館提携再調印のため、今回、アルバータ州へ訪問する荒川館長の随行として筆者らがRAMへ派遣されることとなった。そこで本稿では、筆者らが実際にRAMの展示室とバックヤードを案内いただきながら見聞したことについて報告する。

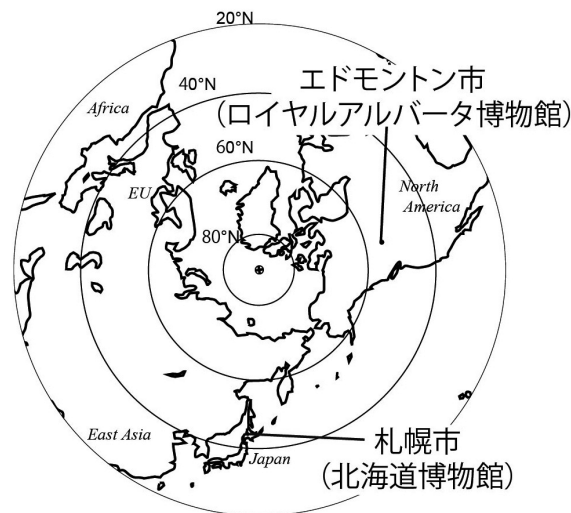


図1 RAMと当館の位置およびRAMの外観

2 RAM訪問までの経緯と訪問スケジュールの概要

当館は、その前身の北海道開拓記念館であった1990年以降、北海道と友好関係にあり、歴史的・文化的にも深いかわりを持つロシア・サハリン州や中国・黒竜江省などの博物館等と、5年ごとの覚書を交わして研究交流や共同研究を行ってきた。RAM (2005年以前はアルバータ州立博物館) とは、2000~2004年、2005~2009年の二期10年にわたり研究交流を行ってきた。2015年度からは「寒冷地における自然と適応」をテーマとした新たな共同研究プロジェクトに調印し、2018年にはこれを更新した。2022年度までの5年間、隔年で学芸職員の派遣や招聘を行うこととしていたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、2019年度の派遣を最後にその往来が途絶え、2023年度以降の友好館提携覚書の

更新も行えないままとなっていた。しかし、その間もRAMとは北海道国際局国際課をとおして、あるいは直接のメール交換をとおして、友好館提携の更新を行えないかについて各種調整が図られてきた。

北海道とカナダ・アルバータ州は、長年にわたって姉妹提携を結んでおり、2025年には提携45周年を迎えることとなった。アルバータ州姉妹提携45周年記念事業として、2025年4月20日 (日) ~21日 (月) のダニエル・スミス アルバータ州首相をはじめとしたアルバータ州

政府訪問団来道に際しては、21日に札幌市中央区にある知事公館にて、鈴木直道知事や当館の荒川館長はじめ、カーリング等のスポーツ、農業、教育等の北海道の関係者が同席し、懇談を行った。筆者の一人である成田も館長の随員として懇談会に参加した。また、記念事業の2つ目として、2025年5月21日（水）～25日（日）に、北海道から濱坂真一副知事を団長とするアルバータ州訪問団の派遣が行われることとなり、その一環として当館とRAMの友好館提携の再調印を行うこととなった。

今回のアルバータ州訪問のスケジュールの概要は次のとおりである。5月21日（水）に北海道を発ち、およそ13時間程度かけアルバータ州へ移動、22日（木）には州議会庁舎訪問の後、RAMで博物館交流覚書更新セレモニーとスポーツ交流再開記念イベントが行われた。23日（金）は、訪問団はGX（グリーントランスフォーメーション）関連施設等を訪問したが、筆者らはRAMのバックヤードや展示室の見学、RAMの学芸員との交流を行った。その後、24日（土）にカナダを発ち、25日（日）に北海道に戻るというスケジュールであった。

3 RAMの概要

RAMは、カナダのアルバータ州都エドモントンにある自然史と人類史の博物館で、カナダ西部で最大の総合博物館である。展示スペースは7,600㎡以上あり、総面積は約38,900㎡である。RAMは、1967年12月にアルバータ州政府によってアルバータ州立博物館・公文書館として設立された。その後、イギリスの女王エリザベス2世がアルバータ州を訪問したことを記念して、2005年にロイヤルアルバータ博物館に改名された。また、2011年に博物館を移転新築する計画が発表され、新しい建物は2016年8月に完成し、2018年10月に一般公開された。このように、RAMは半世紀以上にわたり地域の自然と文化の記録・発信拠点として発展を続けている。2025年5月現在の館長はMeaghan Patterson氏である。

RAMの展示室は、主にNatural History Hall（岩石・鉱物、化石、動物、植物）、Human History Hall（アルバータ州の人類史、文化）、Bug Gallery（昆虫、クモ、小さな無脊椎動物）、Children's Gallery（子ども向けの体験可能な展示室）、Feature Gallery（期間限定の特集ギャラリー）から構成されている。

4 展示室および教育活動

RAMの展示室と、それに関連したRAMで行われている教育活動について、以下に述べる。



図2 大陸移動シミュレーションの動画展示



図3 地球上の3種類の岩石の違いを示す展示



図4 植物食恐竜 *Edmontosaurus* の全身骨格標本



図5 エドモントン周辺の第四系から産出した脊椎動物骨格標本

(1) Natural History Hall

自然史に関する展示スペースである。この展示室は、



図6 植物化石標本と生態復元模型



図7 アルバータ州の湖岸の自然を示すジオラマ

訪問者の一人である成田の専門（地学・古生物）に合わせ、解説とともにご案内いただいた。以下、項目別に詳細に報告する。

1) 地質に関わる展示：アルバータ州に見られる岩石や地形についての詳細が一通り理解できる展示である。大陸移動や火山噴火の様々なパターンのシミュレーション、ベーリング海峡の形成史を示すシミュレーション動画展示が印象的であった（図2）。岩石の展示についてはアルバータ州に見られる岩石や鉱物を取り扱うのはもちろん、火成岩、堆積岩、変成岩という地球上の3つのカテゴリーの岩石をその特徴とともに丁寧に紹介していた（図3）。

2) 古生物に関わる展示：北アメリカ大陸からは多くの恐竜化石が見つまっているが、恐竜化石についてはロイヤルティレル博物館が主に収蔵・研究しているため、RAMの位置するエドモントンの名の付く *Edmontosaurus* など限られた分類群の恐竜が展示されていた（図4）。RAMではむしろ、エドモントン付近で見つまっている新生代第四紀（258万年前から現代）の脊椎動物化石が充実していた（図5）。アメリカマストドン *Mammuthus americanum* やインペリアルマンモス *Mammuthus imperator* など大型のゾウ類の復元骨格が目を引くという点で、当館のプロローグの展示と共通する部分もあ



図8 展示パートナーとアドバイザー



図9 人権問題や環境問題に関する展示

た。北海道で見つまっているゾウ化石とは地表から肩部までの高さや頭骨の形状などの形態的な差が明確であり、そのような違いを感じながら観察すると非常に興味深い。他にもいわゆるサーベルタイガー (*Smilodon*) や巨大なナマケモノ (*Megalonyx jeffersonii*)、バイソン、ウマなど、新生代第四紀の氷河時代を代表する動物化石のうち、エドモントン付近で見つまっているものが多数展示されており、圧巻であった（図5）。

一方、恐竜化石の横には、イチョウ類やメタセコイア属、トクサ類などの植物化石とそれらの生体復元模型、石炭も展示されており、主に中生代古植物の展示スペースもあった（図6）。RAMには古植物学の専門家は在籍していないという事であったが、専門外の資料でもその重要性を理解し丁寧に展示を作成していた。

3) 現代のアルバータ州の自然に関わる展示：アルバータ州の四季をイメージしたジオラマを中心に、アルバータ州の樹木や地形、鳥類や哺乳類のダイナミックなはく



図10 水槽中の生態展示と乾燥標本の展示

製などが展示されていた。アルバータ州の鳥類はく製や、針葉樹など、分類群別の展示コーナーもあったが、実際のアルバータ州の四季の自然が来館者に伝わる様なジオラマは一見の価値がある（図7）。

(2) Human History Hall

アルバータ州の人類史に関する展示スペースである。入り口のパネルには、“The circle connects us to our past and to the future.”とあり、円形の道に沿って配置された展示は、世代間のつながりを表していると考えられる。「アルバータ州の過去を理解することは、私たちが共に未来へと進んでいく助けとなる」というメッセージを形にしたものである。全体を通して「物語」によって伝えることが意識されており、数字や年表だけでなく、個人の体験を通して理解を深められるようになっていた。現在のカナダを支えてきた人たちの文化・知識・価値観を中心に据え、館内外の様々な協力者の視点を尊重して展示が作られていた（図8）。また、人権問題や社会運動も正面から取り上げており、文化の消失や回復など、人々が経験した困難な歴史も隠さずに紹介されていた（図9）。

(3) Bug Gallery

昆虫を中心とした身近な小さい動物の乾燥標本と、生体の展示をしているスペースである（図10）。昆虫や陸生の貝類などの乾燥標本が展示されているのは多くの博物館でもよく見られることであるが、同室中に多くの水槽や昆虫の飼育ケースがあり、実際に生きている昆虫やカタツムリなどを見学することができた。飼育ケースや水槽の洗浄・温湿度管理などに気を配る必要があるが、乾燥標本に加え、生体を観察することで、じっくりと形態を観察するのみならず、どのような行動を示す動物なのかがよくわかるスペースとなっていた。



図11 Children's Gallery中央の恐竜骨格や自動車等の展示



図12 Children's Galleryの自然探究展示

(4) Children's Gallery

RAMには子ども向けの展示室としてChildren's Galleryがある。子どもが興味を持ちそうな昆虫や大型動物、恐竜、自動車に加え、身近に見られる樹木に関する展示等をそろえていた（図11）。身近な樹木の幹の違いを手で触れて体験したり、動物の足あとを辿りつつ、昆虫になった気分で林床を歩いてマイクロな世界を体験したりする展示も印象的で（図12）、子どもでも大人でも楽しめる工夫がされていた。また、日本の科学館でも見かけるような、子どもが実際に遊びながらにして風の仕組みや物質の密度などを体感できるような展示もあった。Children's Galleryの奥には、子どもたち向けの体験や工作を指導したり実演したりするスペースも設けられており、毎週子ども向け講座を開催しているようであった。



図13 シャチの木製全身骨格模型や生物学的な側面の紹介展示



図16 学校団体等対応のためのバゲージキャリー

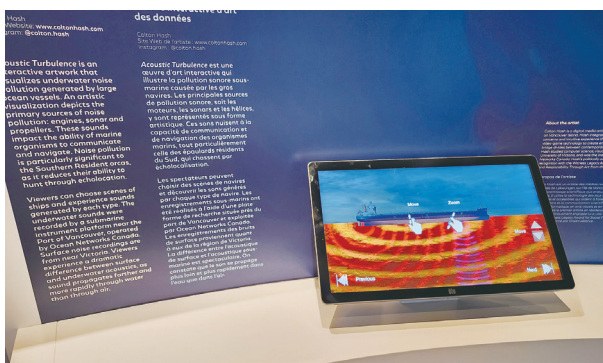


図14 船舶が海洋へ轟音を出すことをわかりやすく示すシミュレーション動画展示



図15 Museum ZONEの様子

(5) Feature Gallery

期間を区切って、今後の人類が何を考え、どのような振る舞いをすべきかを考えるための展示スペースで、当館の特別展示室に似た性質をもつスペースである。今回は「Orcas」が開催されていた(図13)。Orcaとは日本語でいうシャチ *Orcinus orca* のことである。シャチの進化史や体の構造、生態など自然史的な展示に加え、カナダの人々がシャチとどのような関係にあったのか、シャチがカナダの人々の文化にどのように根付き、如何に大切にされてきたのかという文化人類学や民俗学にも関わる内容も盛り込まれていた。また、人類活動や開発によって海洋環境がどのように変化し、破壊されているの

— What Museums Do —

COLLECT
Museums acquire objects from cultural and natural environments.

CONSERVE
Museums take care of those objects to ensure their long-term preservation.

RESEARCH
Museums learn everything possible about their objects and what those objects tell us about the world.

EXHIBIT
Museums put objects on public display.

COMMUNICATE
Museums create opportunities for people to experience their objects and to learn and share information about them.

— Que font les musées? —

ILS COLLECTIONNENT
Les musées recueillent des objets d'origine naturelle et culturelle.

ILS CONSERVENT
Les musées prennent soin de leurs collections afin de les protéger à long terme.

ILS FONT DES RECHERCHES
Les musées essaient d'en savoir le plus possible sur leurs collections et ce qu'elles nous apprennent sur le monde.

ILS FONT DES EXPOSITIONS
Les musées font découvrir les objets au public.

ILS COMMUNIQUENT
Les musées permettent aux gens de découvrir leurs objets et d'en apprendre davantage à leur sujet.

図17 RAMが目指す博物館像と使命

かについて、動画やシミュレーションの展示もあり(図14)、目で見て、耳で聞いて、手で触って学ぶことができるような配慮(視覚的・聴覚的な障がいを持つ人のための工夫を含む)もなされていた。他の展示にも共通するが、“indigenous views”として先住民族が持つ独自の歴史観・自然観・知識体系を尊重し、その視点から世界



図18 第四紀の骨格化石標本キャビネット

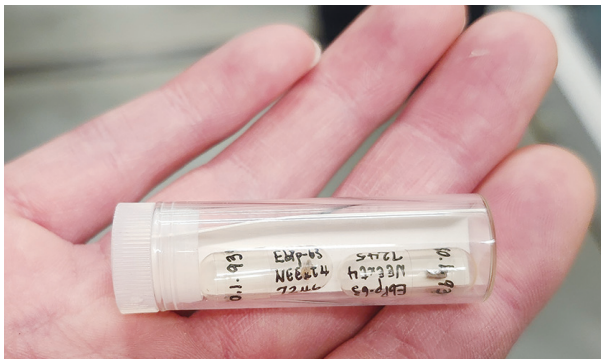


図19 小型脊椎動物化石の保管チューブ



図20 市民参加で作製されたバイソン化石の産状標本

を理解し直す展示づくりにも重きが置かれていた。

(6) Museum ZONE

上記のChildren's Galleryとは別に、展示スペースの外にはMuseum ZONEという教育用のホールがある(図15)。当館の講堂にあたるスペースとなるが、教育用に特化している部分があり、かつ、他のスペースとの境界となる様な壁がなく、大変開放的な空間となっていた。このスペースには教育用に活用できる骨格や液浸標本などのハンズオン教材が専用の棚に収められており、すぐにそれを取り出して活用できるような工夫もされていた。小学生から大人まで、教育用の博物館資料に触れながら“生きた教育”を受けることができる素晴らしい空間となっていた。アルバータ州では、いわゆるアクティブ・ラーニングやSTEAM教育を重視しているが、このような部分にもそれが現れている可能性が考えられる。また、大人数の学校団体を迎えるためにも広くスペースをとっており、さらに子どもたちの荷物をまとめて収納して運ぶことのできる専用のキャリーがあることにも大変驚かされた(図16)。このスペースの入り口には「- What Museums Do -」と書かれたパネルが掲げられており、RAMが目指す博物館像と使命が端的に英語とフランス語で表現されていた(図17)。

5 バックヤード

(1) 古生物

化石収蔵のキャビネットが強固で、保存管理が行き届いていた(図18)。大型化石や岩石標本は、文書等の資料に比べ、温湿度管理や埃等の影響を比較的受けにくいですが、RAMのように収蔵しているときには、キャビネット内に収まり、埃が被らないように保管しておくことが望ましいものと考えられる。また、小型脊椎動物の歯の化石などは、実験用のチューブに入れた上で産地情報等の必要事項を記載して保管されていた(図19)。写真撮影や化石処理のスペースも収蔵庫内に確保されており、機能的であった。一方、当館と似た状況であるが、収蔵庫内にはRAMのリニューアル前に展示していた資料も大切に保管されていた。そのうちのひとつとして、発掘当時中学生だった地元住民が、RAMの学芸員と協力してバイソンの化石を発掘し、生きていた当時の姿をイメージしながら本来そのように関節がつながっていたであろうと考えられる場所に骨化石を配置して作り上げた展示物(図20)が残されていたのは印象的であった。2025年現在は、カナダにおいても日本と同様、化石発掘では所定の手続きをとったり、化石の扱いに慎重になったりする必要があるが、現在ほどの制約がなかった時代に、

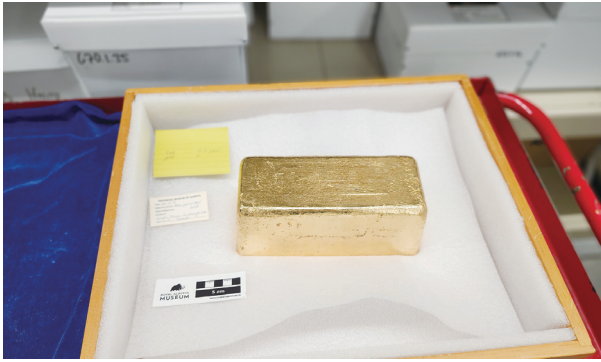


図21 金の延べ棒をイメージした鉛のハンズオン展示（訪問時にはバックヤード内に収蔵）



図23 手動式の移動棚



図22 資料保管用のキャビネット



図24 棚ごとに付されたアルファベットのラベル

まさに市民参加型の展示として作製され、実際に展示されていたものであると説明を受けた。同様のことを当館で行うのは難しいかもしれないが、学芸員と市民が協力して調査研究と展示を行った好例であり、今後の道民参加型事業を考える上で大いに参考になる。

(2) 地質

化石の収蔵庫とは別に岩石や鉱物の収蔵庫が別に設けられていた。大規模コレクションの寄贈対応でも一つ一つのラベル作成や、教育活動への応用を意識されていた。岩石や鉱物を身近に感じてもらえるように、実際に“金の延べ棒”を鉛で作製し、それを持ってもらい、その重さの約2倍（1.7倍）が金の重さ（密度）であることを体感してもらえるような教材も、バックヤードで準備さ



図25 重量バランスで整理された棚



図26 収蔵庫内に設置された捕虫トラップ



図27 館内の大型冷凍庫

れていた(図21)。資料の適切な処理や保管をするためにもバックヤードは必要不可欠であるが、このように収蔵されている資料から、新たな展示や教材の作成のためのバックヤードの必要性についても改めて考えさせられた。

(3) 収蔵庫の管理

RAMの収蔵庫は、非常に機能的かつ合理的に設計されていた。まず、収蔵庫は当館のように階層で分かれておらず、出入りが通路に直結していた。これによって、スムーズかつ安全に資料の出し入れが可能となるだけでなく、空間を跨ぐ際の段差を気にせず資料の移動が簡単に行える。今回見学した「Rock & Fossil Collections」の収蔵庫は、スチール製の可動式ラックが備え付けてあり、その中に金庫のような形態のキャビネット内に施錠して資料を保管していた(図22)。ラックはハンドルを手動で回して移動させるタイプであり(図23)、資料出納時の便のためアルファベットで識別

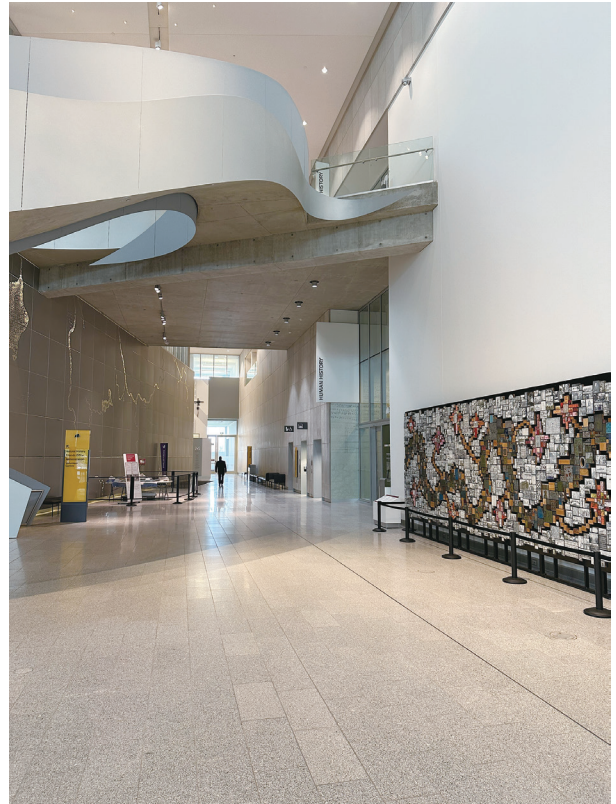


図28 エントランスの先住民アート作品(写真右)



図29 「Orcas」会場の先住民アートの解説と意匠

するラベルが添付されていた(図24)。また、重量物は下段に、プラスチック製の収納箱のような軽いものは上段に収納されていた(図25)。化石資料の場合、資料が動いたり局所的に重力による負荷がかかったりしないようポリウレタン製の台座が用意されていることが多く、資料1点1点に非常に気を配られている様子が窺えた。収蔵庫内には捕虫トラップが設置されていたが、部屋の隅など限られた場所に少数あるのみであった(図26)。各収蔵庫の通路側の壁面には、その場所にどのような資料が収納されているかが一目でわかる資料写真がちりばめられており、非常に分かりやすかった。収蔵庫の他には大型の冷凍庫が3台稼働しており、冷凍状態を長期間維持する必要がある資料が保管できるようになっていた

(図27)。

6 アート作品に見る先住民へのまなざし

RAMには、カナダ先住民のアート作品の展示が見られた。一つめはエントランス(図28)、二つめはFeature Galleryの「Orcas」の会場(図29)である。カナダのミュージアムがどのように先住民アートを展示しているかについては、木下(2025)の論考に詳しい。木下によれば、1920年代のカナダの展覧会では、「先住民側の視点が欠如しており、先住民アートに西洋社会が定義する芸術的な価値を与えるという傲慢なもの」であったが、時を経た1990年代には、「西洋の視点から構成された展覧会に欠如していた当事者の視点」が反映されていることを明らかにしている。そして、「展覧会が異なるコミュニティをつなげる装置としての役割を担う背景には社会の変化がある」として、カナダの多文化主義政策を土台に、展覧会が先住民に対する無理解や無関心を打破することに寄与した可能性について言及している。展覧会にこのような力があるならば、現在もミュージアムは先住民にルーツを持つアーティストの作品を通して自由な表現を保証する場として機能していると考えられる。実際、今回の訪問でそれを確かめられたことは、木下の主張を支持するできごとであった。

また、今回のRAM訪問時に、Meaghan Patterson館長より当館へ向けて贈られた友好の証としての贈り物は、カナダ先住民でありエドモントンで育ったコンテンポラリー・アーティストのJason Carter氏が描いたグラフィックペインティングであった。(図30)このことから、カナダのミュージアムが社会に対してどのような役割を果たそうとしているのかを窺い知ることができた。

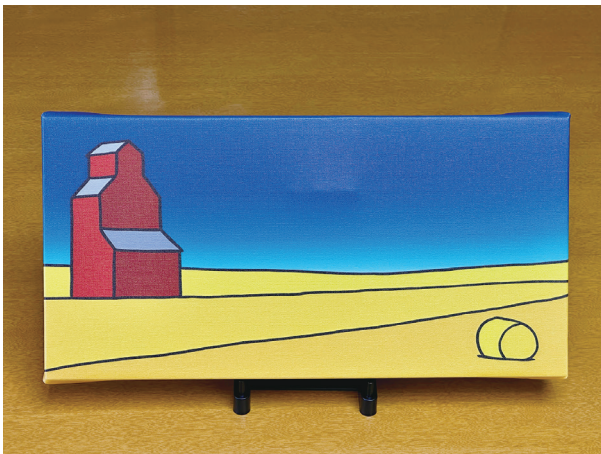


図30 RAMからの友好の証としての贈り物
(Jason Carter氏が描いたグラフィックペインティング)

7 当館との今後の連携協力について

RAMの各学芸員は高度な専門性をもって、国際学術誌への論文投稿数も多い(例えば、Barrón-Ortiz et al. 2025; Jass and Allan 2016; Collin et al. 2025)。バックヤードも保存のみならず、調査研究のしやすさも考慮されていた。当館とは状況が異なる部分もあるが、今後、研究活動や資料の取り扱い、展示や教育など、RAMの多岐にわたる取り組みを参考にしつつ、各研究分野における共同研究や交流を継続し、協力関係を結んでいくことが望ましい。そのような協力関係が博物館活動の発展のみならず、学術や教育の振興にも大きな貢献をすると考えられる。

今回の訪問を通じて、RAMが自然史・人類史両面において高い専門性と社会的包摂を両立させた展示を展開していることについても確認した。当館においても、これらの実践を参考に、地域社会との協働や教育普及のあり方を見直す契機としたい。

謝辞

RAMで筆者らを暖かく迎えご対応いただいたMeaghan Patterson館長をはじめ、RAMの皆様には大変お世話になった。北海道スポーツ協会の酒井隆氏にはカナダ派遣中に常にご同行いただき、多岐にわたるサポートをいただいた。筆者らのカナダ・アルバータ州への派遣にご協力いただいた北海道国際局国際課関係各位にもお世話になった。以上の皆様に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- Barrón-Ortiz, C. I., Jass, C. N. and Cammidge, T. S., 2025. Taxonomic, biogeographic, and biological implications of mammoth teeth from a dynamic Pleistocene landscape in Alberta, Canada. *Quaternary Research* 123 : 41-58.
- Collin, Y. R. H., Bataille, C. P., Hershauer, S., Tašunke Icu, M. H., Nujipi, A., Justin, W., Stelkia, J., Stelkia, J. A., Topkok, S. A., Leonard, B. G., Soop, B., Gonzalez, M., Wiñ, A. L., Wiñ, W., Omniya, T., Dull Knife, B., Means, B., Collin, C. T., Koskey, M., Kapp, J. D., Landry, Z., Fraser, D., Southon, J., Lindroos, E. E., Hassler, A., Chauvey, L., Tressières, G., Tonasso-Calvière, L., Schiavinato, S., Seguin-Orlando, A., Perdereau, A., Oliveira, P. H., Aury, J.-M., Wincker, P., Kirillova, I. V., Vasiliev, S. K., Kusliy, M. A., Graphodatsky, A. S., Tishkin, A. A., Barnes, I., Druckenmiller, P., Jass, C. N., MacPhee, R. D. E., Barrón-Ortiz, C. I., Groves, P., Mann, D., Froese, D. G., Wooller, M., Miller, J. H., Crowley, B., Zazula, G., Hall, E., Hewitson, S., Shapiro, B. and Orlando, L. 2025. Sustainability insights from Late Pleistocene climate change and horse migration patterns. *Science* 15 MAY 2025 : 748-755.
- Jass, C. N. and Allan, T. E. 2016. Camel fossils from gravel

pits near Edmonton and Vauxhall, and a review of the Quaternary camelid record of Alberta. *Canadian Journal of Earth Science* 53 : 485-493.

木下晴美 2025. 展覧会と先住民アート～カナダのミュージアムを事例として～. 日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要 29 : 31-40.

Report on the Visit to the Royal Alberta Museum

TAKAHASHI Yoshihisa and NARITA Atsufumi

The Royal Alberta Museum (RAM) in Alberta, Canada, has maintained a close relationship with Hokkaido Museum under a “Memorandum of Friendship.” In 2025, marking the 45th anniversary of the sister-province partnership between Hokkaido and Alberta, Hokkaido Museum Director Arakawa, together with the authors, visited RAM to renew this agreement. During the visit, we were given guided tours of both the exhibition galleries and the behind-the-scenes facilities. The galleries featured video-based simulations related to geology and marine environments, interactive exhibits designed for

visitors of all ages, and socially engaged displays addressing human rights, social movements, Indigenous perspectives, and environmental issues. RAM also provided dedicated educational spaces and various measures that facilitate educational outreach. In the collections area, great care was taken to ensure the safety, accessibility, and proper handling of individual specimens. RAM’s mission and vision were also prominently presented. These practices and approaches offer valuable insights for considering the future direction of our own museum activities.

